

「小樽」と聞いて何をイメージされますか？ 運河やガラスなどで有名な小樽ですが、近代銀行建築が数多く残る「銀行の街」であったことはあまり知られていないかもしれません。建築家辰野金吾らにより手掛けられ一九一二年（明治四五年）に竣工した日本銀行旧小樽支店の建物は、歴史的な銀行建築の一つです（小樽市指定有形文化財）。現在は金融資料館として市民に親しまれ、観光客を楽しませています。今回は同館の魅力を、その歴史に関する展示からご紹介します。

### 小樽の発展と

### 日本銀行小樽支店

日本銀行は、一八九三年に小樽支店の前身である「小樽派出所」を設置し、一八九七年に「小樽出張所」へ昇格させました。同年日本は、金本位制度へ移行し、金準備の充実が求められていました。そのため日本銀行は、一九〇〇年に小樽出張所内に砂金分析室を設置し、道内産の砂金買い入れを開始しました。現在、金融資料館の歴史展示ゾーンでは、当時の砂金買い入れの際に使用していた砂金計量器も展示しています。

小樽は国際貿易港への指定（一八九九

## 日本銀行旧小樽支店 金融資料館と銀行の街小樽



年）や鉄道の発達に伴う商圏の拡大などにより、貿易港として発展を続け、一九〇〇年代に入るとそれまで北海道商業の中心地であった函館を凌ぐほどになりました。

小樽が発展をつづける中で、一九〇六年に日本銀行小樽出張所は、「小樽支店」となりました。日本銀行は小樽の発展を金融面で支え、そうした中で、一九一二年に辰野金吾らの手による建物が建てられたのです。

銀行が増え手形流通も増加したため、その取引の円滑と安全のために一九一三年には手形交換所が設立されました。



現在も近代銀行建築が立ち並ぶ色内町の十字路

第一次世界大戦期、各地の貿易業者が小樽に進出するなどしたため、会社数が急増しました。このため資金需要も増加し、多くの有力銀行が小樽に支店を持つようになり、小樽の金融界は活況を呈しました。一九二二年に小樽の銀行数は二〇行を数え、小樽は北海道における金融の中枢となりました。小樽と他の地域の資金決済が盛んになり、日本銀行小樽支店はそれを支えました。

### 日本銀行小樽支店の建築

明治・大正期に小樽の小学校の校長であった稲垣益穂の日記（『稲垣日記』小樽市総合博物館所蔵）（注1）には、日本銀行小樽支



日本銀行旧小樽支店金融資料館。日本銀行や旧小樽支店の歴史を紹介する展示ゾーン

店や銀行の街小樽が造られていく様子が克明に記されています。

稲垣益穂は竣工一年前の一九一一年六月に、建築中の日本銀行小樽支店の見学を訪れ、その様子を次のように記しています。

「…午後日本銀行の佐久間長次郎から電話で見に来いといつて来た。…諸氏同行して見物に出かけた。また落成はしてをらぬがなかなか宏壮な建築である。着手は二三年前からであつたろう。…先づ第一に金庫の大なるに驚いた。…玄関から這入った處は広い用を弁ずる處で、其周囲は美しい大理石である。装飾まで出来上つたら立派なものになるであらう。建築費は四十万円というから、小樽で第一であるばかりでなく、恐らくは北海道第一であらう。」（一九一一年六月二日）

当時、小樽は北海道の海の玄関口として発展しつつあり、日本銀行は、小樽支店の店舗を新築するにあたり、大阪支店に次ぐ建築費をかけ、大正期の近代建築の先駆けとなる技術を用いています。明治から大正への近代建築技術の推移を示す貴重な建物です。

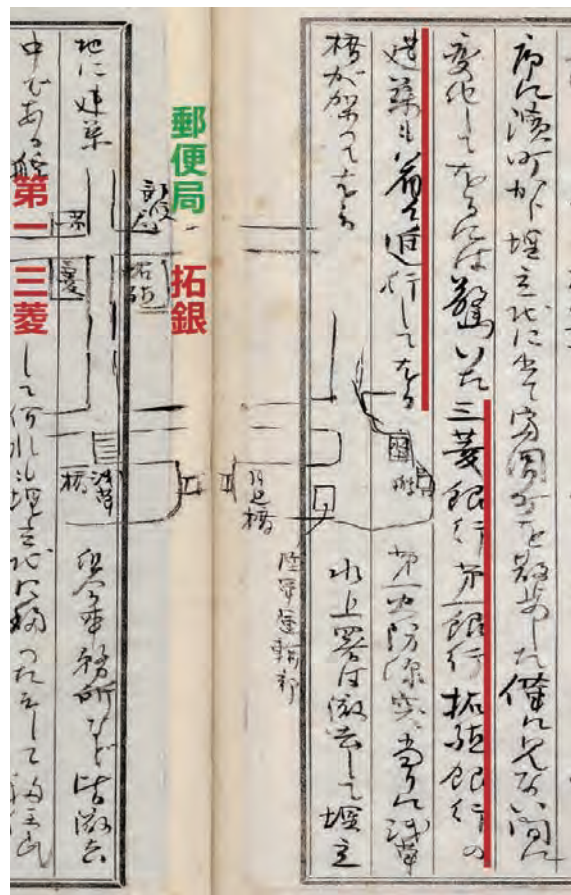


色内町十字街 1924年頃の様子。工事中の第一銀行の様子が見て取れる。左手前角 三菱銀行（1922年）、左奥角 第一銀行（1924年）、坂上奥左手 日本銀行（1912年）、右手前角 北海道拓殖銀行（1923年）（カッコ内は竣工年）

日記が描写している日本銀行小樽支店の建物は、現在もほぼそのままのかたちで残されており、金融資料館として内部を見学できます。

金融資料館は日本銀行の業務を紹介する業務展示ゾーンと日本銀行や旧小樽支店の歴史を紹介する歴史展示ゾーンからなります。このうち歴史展示ゾーンは、初期の国産鉄骨（八幡製鉄所製）を使用した屋根に支えられ実現した、柱の無い

（注1）本年一月まで金融資料館で開催していた特別展「銀行の街小樽 大正時代のモノの値段と小樽のくらし」（小樽市総合博物館と共催）で展示。



銀行建築が進行する様子を記した小樽市民の日記「稲垣日記」33巻 1922年（小樽市総合博物館蔵）

旧営業場の空間を利用しています。そのような建物の特徴、棟札の実物や上棟式の様子など建築史も展示しています。

### 銀行の街小樽

辰野金吾とともに日本銀行小樽支店の設計に深く携わっていた建築家長野宇平治は、同じ時期に日本銀行小樽支店斜め前の北海道銀行本店（注②）の設計も手掛けました。そしてその後、この辺りが小樽の銀行街の中心となっていきました。

日本銀行小樽支店が竣工しておよそ一〇年後に小樽経済は最盛期を迎えます。その頃、日本銀行小樽支店前の坂を下った十字路に銀行街が造られていく様子が

先ほどの日記に記されています。

「…浜町から埋立地に出て、富岡町を散歩した。僅に見えない間に、変化してをるには驚いた。三菱銀行、第一銀行、拓銀の建築も、着々進行してをる。…」  
（一九二二年九月一日）

ここに挙げられた三つの銀行の建物は、それぞれ用途は変わっていますが現在も使われています（いずれも小樽市指定歴史的建造物）。このほか旧北海道拓殖銀行の並びにある旧三井銀行なども含め、往時の銀行街の景観を楽しむことができるのも小樽観光の魅力です。金融資料館で

は、大正期の銀行街の建物を復元したジオラマを楽しむことができます。

現在の小樽には、往時をしのばせる運河の周辺に数多くの歴史的建造物が立ち並んでいます。その中でも、旧銀行街の中心に位置する日本銀行旧小樽支店金融資料館は、小樽の観光スポットの一つとして、国内外から訪れる観光客のほか、地域の皆様にも親しまれています。

金融資料館で旧小樽支店の歴史や日本銀行の歴史・現在の日本銀行の役割を学んだ後、「銀行の街小樽」の散策を楽しんでみませんか。

【入館料】 無料

【開館時間・休館日等】 金融資料館HP (<http://www.3.boj.or.jp/otaru-m/>) をご覧ください。



（注②）現在の北海道銀行とは無関係。